



文部科学省
IB教育推進コンソーシアム

TEACHER TESTIMONIAL



吉田賢一氏(筑波大学附属坂戸高等学校)

教員の前は商社に勤めた後、青年海外協力隊(JICA)で2年間活動。

DPコーディネーター業務、DP歴史HL、EEコーディネーター担当。IB教育8年目。

「勉強を通じて自分の人生が豊かになると信じています」

フィードバックをもらいながら仕上げていく
プロセスは企業の仕事と似ています

本校は、総合学科の高校です。「卒業研究」が原則必要履修科目であり、過去30年間探究ベースのカリキュラムを作り上げてきた学校なので、探究学習の素地はありました。そのため、IBを導入する際にもスムーズで、学習のスタイルに違和感はなかったかと思っています。IBの教育スタイルは大人が社会に出た時に経験する学習方法に近いと思います。

実は私は民間企業から転職し、最初は公民の教員として着任したこともあり、特にそう実感するのもできません。教員になる前の経歴としては、総合商社で物流を担当し、その後、JICA(独立行政法人国際協力機構)の青年海外協力隊でインドネシアへ2年間、山奥の国立公園に派遣されて森林保全の仕事をしました。また、周辺の小学校中学校を回り、環境教育活動も行っていました。坂戸高校が、インドネシアのボゴール農科大学附属コルニタ高校と姉妹校だったこともあり私が本校に着任する縁がありました。

企業ではプロジェクトや仕事で、上司からフィードバックをもらいながら最終的に仕上げるプロセスを経っていくものですが、IB教育もまさにそれと同様だと思います。IBでは、30分～1時間で終わるような宿題ではなく、半年～1年かけて「課題」に取り組んでいき、その都度、指導教員(スーパーバイザー)からフィードバックをもらいながら、それを活かして最終的にプロジェクトを仕上げていきます。これは企業で

の仕事ととても似ていると思います。こういうプロセスを高校生や大学生の時に経験しておくのはとても大事ですし、形成的な振り返りが得られる長期的な取り組みを通して学べるのは、IB教育の良い点だと思います。

私が一番大切にしている10の学習者像は
「振り返りができる人」

評価の部分で生徒も教員もフィードバックを意識して、尚且つ次にそれを生かす姿勢が大切です。フィードバックを活かせるかどうかで学びが違ってきます。次に活かそうとしない人はなかなか伸びませんし、活かそうとして取り組む人は、伸びていきます。その成果がさらにその先の結果に繋がっていくのはとても良いことだと思います。クラスの中でも、振り返って次に活かしていける姿勢がある生徒と、フィードバックを垂れ流してしまう生徒では差がでてしまうという印象があります。その為、高校1年生のうちは学期ごとに面談し、2年生(DP)になると2週間に1回はプレゼンテーションを行うようにしています。こうした取り組みによって、振り返りを活かすことが苦手な生徒でも、学年が上がるにつれて、繰り返しフィードバックの機会を作るため、だんだんと自ら振り返りが出来るようになっていきます。

対立しても協働しながら課題をこなすように、
設計されたカリキュラム

探究課題の設定の仕方やタスクの量と質などの課題に対するプレッシャーによって生徒はつまづくこともあります。それを乗り越えていける機会がIBのカリキュラムには多く含まれています。カリキュラムがグローバルスタンダードなので、生徒自身も多様なバックグラウンドを持つ生徒が多く、そういった環境下で学ぶため、異質な相手と学び合うというバリアはなくなっていくと思います。例えば、1年次では意見があわない生徒同士が同じグループになると、対立することも多々ありますが、それも学びになっています。DPが始まると、より対立するというようなことがなくなってきました。共通の目標があるため、ぶつかっていても意味がないということに生徒達自身が気づき、合理的に考えて進めるようになったからです。IBカリキュラム自体が、この様に対立を解決していくような仕組みになっており、一度対立したとしても、最終的には協働しながら課題をこなしていけるように、IB教育は上手く設計されていると思います。

卒業後に役に立つようなスキルや考え方のトレーニングを積んでいます

IBで学ぶということは大変なことも多く、英語に関しても敬遠してしまう人がいるかと思いますが、DPカリキュラムは、確実に卒業後に役に立つようなスキルや考え方をトレーニング出来るカリキュラムになっています。チャレンジングなところと、将来につながる場所、両方を上手くバランス良く考え、IBに挑戦してほしいと思います。日本や世界が抱える社会課題を取り上げて学ぶことが多いですが、その課題に取り組む中で、IB修了生は議論の前提条件を疑う、疑問をもつ、グループワークをするなど、授業ベースで批判的に物事を考えたり、協働して、プロジェクトを遂行していくトレーニングを積んでいます。また、自ら振り返りながら長期的に課題に取り組むことで、タイムマネジメントや自己管理スキルも養われます。それらは社会に出てからも役立つスキルだと思います。

自分自身の教員としてのスキルを常に見直すことで成長できていると感じています

IB教育に携わることは教員としてとてもスキルアップできると思います。カリキュラムの大枠は決まっていますが、その範囲内で評価の仕方、学習者像に基づいた授業設計などを繰り返し行うことは、教育者として非常に良い訓練になるので、教員としてIBを知ることはレベルアップにつながります。IBから与えられるのはトピックだけなので、そのトピックにどのようにアプローチして、どこでどのように何の実験をやるのかなどは、教員に委ねられているため、自由度は高く、やりがいも感じられると思います。教職というものの負担感は相当なものですが、それはどの学校に勤務しても同じだと思います。一方で、DPの授業をすることによって自分自身の教員としてのスキルを常に見直すことから、成長できる点が多いと感じています。また、IB教育に携わる中で、日頃から必然的に色々な知識を得、学習し続けることが求められるので、その勉強を通じて、教員としてだけでなく、自分の人生が豊かになると信じています。

